

1. 高齢者看護ケア教育モジュールの開発

学校法人 佐久学園 佐久大学

【現地の状況やニーズなどの背景情報】

ASEAN の共通する課題は、加速する高齢化である。しかし、大学における看護、介護教育は全国で標準化されておらず、指導する教員は、タイではかなり増えてきているが、ベトナムでは皆無であった。

【活動内容】

佐久市は、「世界最高健康都市宣言」の下、地域包括的ケアの取組みに力をいれ、増え続ける高齢化(2015年現在 28.4%) に対し健康寿命を延ばす活動をしている。今般タイ、ベトナムから計5名の研修生を2週間受け入れ、高齢者看護ケア教育の指導者を育成すべく佐久大学で講義、佐久市の施設で見学研修を行った。

佐久大学の教員3名がタイ、ベトナム(タイの教員1名と共に)へ出向き現地でセミナーを開催した。

【期待される成果や波及効果等】

現地セミナーの波及効果は大きい。教員の養成は現地にとり喫緊の課題である。

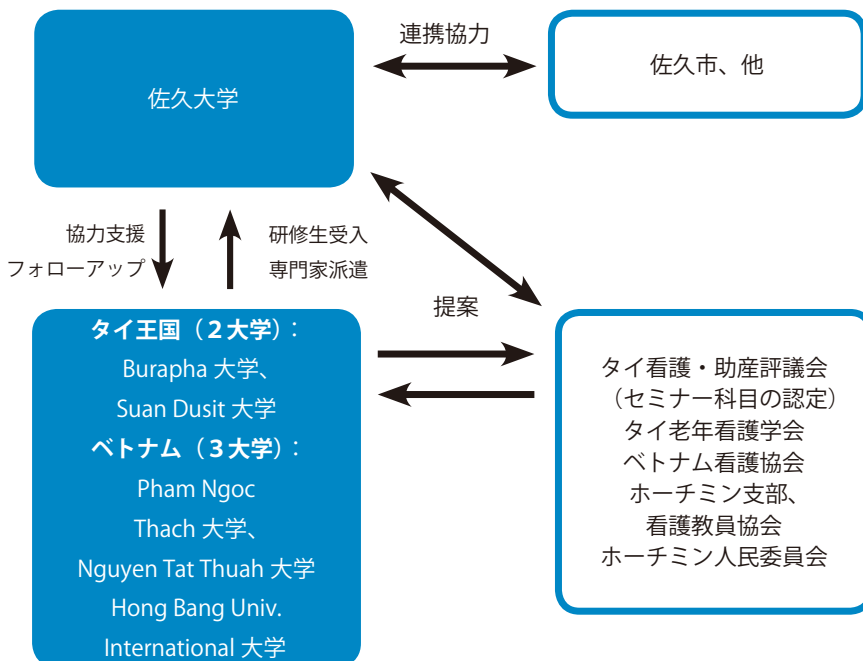
<研修実施結果>

11月10日～25日 研修生受入(5名)

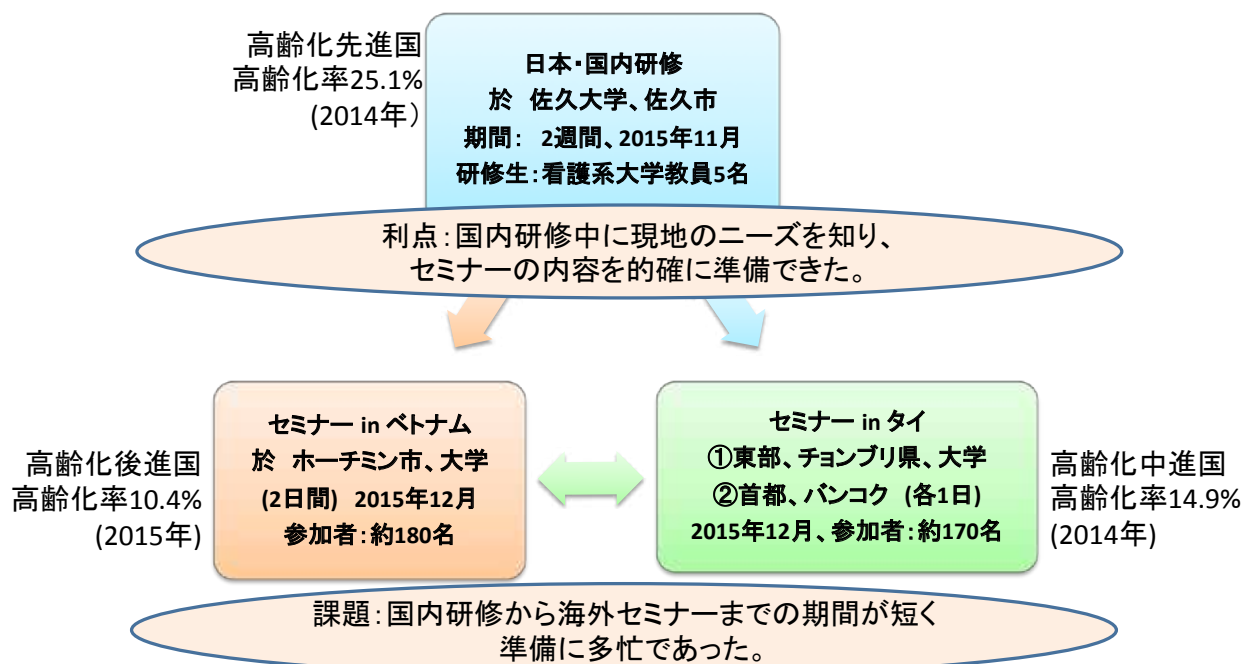
- ・日本の保健医療・介護制度
- ・日本の高齢化と老年看護学
- ・老年看護学の教育内容
- ・老人保健施設の見学
- ・実習室におけるシミュレーション
- ・看護・介護学生の実習見学
- ・老年看護学 モジュールの作成

12月8,9日 タイ、セミナー(170人)

12月11,12日ベトナム、セミナー(180人)



高齢者看護ケア教育モジュールの開発研修



研修スケジュール(11/10 - 11/25, 2015)

研修生: 大学系大学教員5人(タイ2人、ベトナム3人)

主な研修項目:

- 日本における高齢者を対象とする保健医療福祉制度
 - 介護保険事業・施設ケアの見学
- 日本の人口の高齢化と老年看護学教育の発展
- 老年看護学の教育内容
 - カリキュラム
 - 学内演習、看護学実習
 - 看護・介護学生の実習の見学
- 自国に対応できる老年看護学モジュールの作成

講義: 13 施設見学: 7カ所 演習: 1

訪問看護: 2グループに別れて、2カ所ずつ見学

研修スケジュール(11/10 - 11/25, 2015)
研修生:大学の看護教員5人(タイ2人、ベトナム3人)

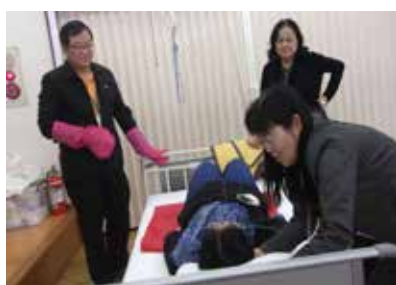


佐久大学に到着した5名の研修員を
囲んで



演習:高齢者の疑似体験

研修スケジュール(11/10 - 11/25, 2015)
研修生:大学の教員5人(タイ2人、ベトナム3人)



演習:福祉用具を用いた移乗援助の体験



基礎看護演習「足浴」を見学



研修成果(評価アンケート)

属性: 平均年齢 52歳7か月 平均教育経験年数 20年 臨床経験年数 7.8年

達成すべき項目(達成率):

- 1) 高齢者の状況について理解を深め学生へ十分説明ができる: 95%
- 2) 日本の介護保険制度と介護度(要支援1-2、要介護1-5)について理解し、自国の状況に対して提言できる: 90%
- 3) 在宅ケアについて、地域の文化、個人の価値観を尊重しつつ指導の要点をまとめる: 85%
- 4) 日本の地域在住高齢者に対するサービスを見学し、自国の5年後の高齢化社会を想定し、ケアのあり方について、学生への指導手法を考察し、教育方法について指導案を作成することができる: 95%
- 5) 日本の医療、保健福祉施設内の高齢者看護を見学し、看護職としての専門的な視点を学び、自国に取り入れることができる: 95%
- 6) 参加国間の大学における「老年看護学、或いは高齢者ケアのカリキュラム、臨地実習」について情報交換し、自国の看護・介護教育への導入の参考にできる: 100%
- 7) 日本の専門家は、タイ、ベトナムの高齢者教育および高齢者の状況を理解し、ニーズに応じた指導を行う: 100%

日本における研修の気づきと学び

タイ — 研修前

- 1) すでに老年看護学は教育されているが、単位数は大学により異なっている。
- 2) 「老年看護学」として必ずしも独立していない。
- 3) 教育方法が日本のように工夫されていない。

例： 国立ブラパ大学：老年看護学
5単位(講義3、実習2)
国立スアン・デュシット大学：
成人・老年看護学-4単位(講義2、実習2)

タイ — 研修後の提案

- 1) 老年看護領域の自立を推奨する。
- 2) 教材を工夫する(VDO,シミュレーション、事例検討を取り入れる)。
- 3) 教育内容に、「認知症、廃用症候群」について加える。
- 4) 教育内容をevidence based Teachingに改善し、データを入れる。
- 5) 教員が老年看護学研究や、現場経験を積み、教員の質を上げる必要がある。

日本における研修の気づきと学び

ベトナム — 研修前

- 1) 老年看護学は、基礎看護学、成人看護学の中で教育されている。
- 2) 新しい領域であり、教員も指導項目を十分に理解していない。
- 3) 学内には演習設備がない。
- 4) 実習は病院のみで、地域や施設に暮らす高齢者の看護について教育していない。

ファム・ノック・タック医療大学：2単位
ホン・バン国際大学：2単位
ヌエン・タット・タン大学：4単位

ベトナム — 研修後の提案

- 1) 教員の養成が喫緊の課題である。
- 2) 「高齢者の理解」について、高齢者の心身の特徴、QOL、健康増進等の講義を増やす。
- 3) 地域の高齢者の事情を教育に取り入れる。
- 4) 将来、学生が地域で実習できるように仕組みを考える。
- 5) 訪問看護を先駆的なサービスとして、導入することを検討する。

タイに於けるセミナー (参加者数：約170人)

- 1日セミナー(8:30～16:45)
 - ① 於国立ブラパ大学キャンパス会議場 (12月8日)
参加者の概要：教員半数、臨床の実習指導者半数：計84人
 - ② 於バンコク、在日本国大使館多目的ホール (12月9日)
参加者の概要：多くは大学の教員、実習指導者、計79人＋スタッフ10人
- **指導の要点**：タイの教員は、高齢者とその看護について基礎的な理解ができていて、との情報により、タイではまだ事例の少ない「認知症」「在宅ケア」を題材に教授法の実例を交えて講義を行った。

タイにおけるセミナー(12/8 – 12/9, 2015)



チョンブリ県ブラバ大会場の様子



バンコク会場の様子

ベトナムに於けるセミナー (参加者数:約170人)

- 2日間セミナー(12月11日～12日) (8:00～16:30)
- 於国立ファン・ヌック・タック医科大学会議場
- 参加者の概要:ホーチミン市周辺の看護専門学校・大学(計9校)の教員 及び病院の実習指導者 計90人を2日間+スタッフ10人
- **指導の要点:**「老年看護を如何に教えるか」について知りたい、という希望に基づき、①「高齢者について理解する」、②「老年看護学の必要性、カリキュラムについて理解する」、③「演習指導、実習指導方法を理解する」、④「認知症について理解する」ことを主な点とした。

ベトナムに於けるセミナー(12月11日、12日、2015)



ホーチミン会場の様子



演習の様子

セミナーの評価

タイ

- ・「多くの知識を得ることができた」
大変良い 29人(52.7%)
良い 24人(43.6%)
- ・「知識を実践に応用できる」
大変良い 30人(54.5%)
良い 23人(41.8%)

ベトナム

- ・「教育や演習で役立つ内容であった」45人(100%)
- ・ 総合評価
大変良かった10人(22.2%)
かなり良かった 28人(62.2%)

今後のセミナーへの要望

タイ

- ・ 脳卒中、心疾患等の事例に対する退院指導、在宅看護の実際
- ・ 高齢者の慢性疾患に関する教育方法
- ・ 学生への倫理観の教育
- ・ 新人教員への指導

ベトナム

- ・ 高齢者の栄養について (11人)
- ・ 精神的なケアについて(8人)
- ・ 認知症など高齢者に多い疾患について(6人)
- ・ 実習や講義における老年看護の教育技法(4人)

タイ、ベトナムに於ける今後の課題

- ・ 老年看護を教育できる教員の継続的な人材育成
- ・ 臨床で高齢者のケアを指導できる人材の育成
- ・ 在宅ケアをカリキュラムに取り入れること